

## 別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 株式会社 ウェルファムフーズ		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30	
本票作成	部署名：リスクマネジメント部				
主たる業種	分類コード	09	業種名：食料品製造業		
事業の概要	ブロイラーの肥育、処理、加工； 岡山事業所従業員数：214人（2018年3月末）				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	岡山事業所岡山工場		新見市西方1567	
	②	岡山事業所吉家E農場		高梁市備中町西山2415	
	③	岡山事業所足見A農場		新見市土橋37	
	④	岡山事業所豊永A農場		新見市豊永赤馬3240-1	
	⑤	岡山事業所足見B農場		新見市足見2177	
⑥	岡山事業所吉家B農場		高梁市備中町西山2540-2		
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数 23 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 29 )年度排出量	目標年度(平成 31 年度)
	10,816 t CO <sub>2</sub>	13,391 t CO <sub>2</sub>	12,017 t CO <sub>2</sub>
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 29 )年度排出量
	①	岡山事業所岡山工場	7,118 t CO <sub>2</sub>
	②	岡山事業所吉家E農場	652 t CO <sub>2</sub>
	③	岡山事業所足見A農場	455 t CO <sub>2</sub>
	④	岡山事業所豊永A農場	320 t CO <sub>2</sub>
	⑤	岡山事業所足見B農場	234 t CO <sub>2</sub>
⑥	岡山事業所吉家B農場	343 t CO <sub>2</sub>	

削減目標の達成状況	計画期間：平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 ( 5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 29 )年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 3.4 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 岡山工場の生鳥処理重量 (トン)	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 29 )年度	目標年度
		0.394 t CO <sub>2</sub> /(トン)	0.407 t CO <sub>2</sub> /(トン)	0.375 t CO <sub>2</sub> /(トン)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 29 年度)	達成率等

## 【削減状況の自己評価】

・2017年度は、新たに岡山市に営業倉庫の一部を借り、物流センターの稼働を開始したこと、岡山工場で工場拡張工事を実施し、加工機械を導入したことなどがあり、CO<sub>2</sub>排出量は増加したが、原単位分母の工場原料重量である生鳥処理重量も増加し、前期比6.4%の原単位改善となった。

・農場では、鶏糞を燃料とするバイオマスボイラーで、床暖房を実施しているが、その補助燃料をRPFからLPGに切替えたことから、CO<sub>2</sub>排出量が389 t-CO<sub>2</sub>増加することになった。

**【推進体制】**

・岡山工場を運営する製造部、農場を運営する農場部それぞれに、エネルギー管理員有資格者を配して、省エネルギーに取り組んでいる。

・平成27年度より、工場の設備管理の専門部署である工務課を製造部に設け、省エネルギーを含む設備管理をより推進できる体制となっている。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
岡山工場	<p>(2017年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岡山工場では、タイマーにより空調設備の制御を行い、夏場の電力使用量を削減できた。</li> </ul> <p>(今後実施予定分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー診断を実施し、外部意見を参考にすることを検討している。</li> </ul>
農場部	<p>(2017年度実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化した鶏舎 7棟の屋根断熱を強化し、結露防止と冬場の保温を実現できた。</li> </ul> <p>(今後の実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度以降2021年度まで、毎年7～8棟の老朽化した鶏舎の断熱を強化する。</li> <li>2018年度以降に建設する鶏舎は、断熱能力の高いものとし、鶏糞原料のバイオマスボイラーで床暖房を実施する予定。</li> <li>2018年度以降、鶏舎 1 棟に、温湿度センサーおよびWebカメラを設置し、データを継続的に収集し、解析を行うこととしている。</li> </ul>

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	有	鶏糞焼却炉の熱を隣接する鶏舎で使用する熱源（以前はLPG）として、14農場で導入している。
その他	有	上記と同様の仕組みを宮城県の農場の一部で導入している。

**【その他特記事項】**

--